

公立大学法人公立小松大学

---

# 第1期中期目標期間終了時見込 業務実績の評価

---



令和4年8月

小松市公立大学法人評価委員会  
Komatsu City University Evaluation Committee

# contents

I 全体評価	総評	02
II 項目別評価		
(1) 教育・研究編	① 教育	03
	② 研究	05
	③ 国際交流	07
(2) 地域貢献編	① 地域貢献	09
(3) 法人経営編	① 業務運営	11
	② 財務	12
	③ 自己点検・評価/広報	13
	④ 施設・設備	14
	⑤ その他	14
III 資料		
(1) 評価		15
	評価の基本方針/評価項目/小項目別評価 総括表/評価基準	
(2) 用語解説		17
キャンパスマップ		18

全体  
評価

A

中期目標を達成する見込みである

公立大学法人公立小松大学の第1期中期目標期間終了時における業務実績は、全体として中期目標を達成する見込みであり順調にすすんでいると評価できる。

今春は、大学から初の卒業生を送り出し、就職内定率は100%を達成した。またその約半数が石川県内に就職するとともに、保健医療学部の国家試験合格率が全国平均を大きく上回ったことは、特筆に値する。引き続き、学生に寄り添いながら、積極的な就職支援活動を展開するとともに、卒業生へのアフターフォローについても取り組んでいただきたい。

教育面では、各学科の実践的な専門教育が本格化し、企業や自治体、保健・医療、福祉施設の協力を得て、各種インターンシップや地域実習、臨地実習・学外実習が積極的に展開されており、国際交流においても、コロナ禍で交流が制限されている中で、海外大学との協定締結や長期・短期の交換留学、産学合同シリコンバレー研修、異文化交流などの連携・交流事業が継続的に実施されていることを、大きく評価したい。

研究面では、教員の研究業績及び科学研究費補助金等の外部資金の獲得状況が目標値を大幅に上回り、特に国際学会報告件数や外国語の論文数の実績は特筆すべきであるが、よりランキングの高い雑誌への掲載や大型の外部資金獲得に期待したい。

第1期中期計画期間においては、開設準備を進めてきた大学院サステイナブルシステム科学研究科が開設されたことにより、理系、文系、医系の3つの学部・専攻が垣根を超えた連帯と協働で取り組む教育環境が整備された。

今後も地域の教育研究の中核拠点として、地域・国際社会で活躍する人材を育成し、地域社会の発展に貢献することを期待したい。

項目別評価

項目	評価結果	評価基準
(1) 教育・研究	① 教育   A 達成する見込み	S 上回って達成する見込み
	② 研究   A 達成する見込み	A 達成する見込み
	③ 国際交流   A 達成する見込み	B 概ね達成する見込み
(2) 地域貢献	① 地域貢献   A 達成する見込み	C 達成が不十分の見込み
(3) 法人経営	① 業務運営   A 達成する見込み	D 達成しない見込み
	② 財務   A 達成する見込み	
	③ 自己点検評価・広報   A 達成する見込み	
	④ 施設・設備   A 達成する見込み	
	⑤ その他   A 達成する見込み	

評価

A

中期目標を達成する見込みである

主な活動内容と成果

- 毎年、全授業において学生に「授業評価アンケート」を実施し、学生の理解度の把握や講義の改善につなげた。授業の満足度は、5段階評価で例年平均4以上の高評価を得た。
- コロナ禍においては、オンライン授業にスムーズに移行することで途切れない学習機会を提供したほか、大学独自の無利子の貸付金制度の創設や公認心理師による学生相談体制の強化を図るなど、学びの継続に向けた多方面での支援体制の整備を行った。
- 専門科目においては、地元企業や自治体、保健・医療機関や福祉施設等の協力を得て、インターンシップや地域実習・臨地実習を実施し、実践を通して学びを深めた。
- 学生確保については、大学案内、入試説明会だけでなく、動画や360度カメラを用いたキャンパス紹介などオンラインによる情報発信にも努めた。また、北陸から東海にかけての広範囲での大学進学相談会への参加や高校訪問等を継続的に実施し、認知度向上を図った。
- キャリアサポートセンターでは、各種セミナーや企業見学会、個別相談などを通して学生のキャリア形成を支援した。また、各学科や就職担当教員が一丸となって学生の進路相談・対応にあたる体制をとり、令和3年度卒業生の就職内定率は100%を達成した。
- 令和4年4月の大学院サステイナブルシステム科学研究科の開設により、大学が有する工・文・医系の知的人的資源を活かし、持続可能な目標達成に向けて、専攻の垣根を超えた連帯と協働で取り組む教育研究環境を整備した。

評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われる見込みであり、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 開学年度に横断的なテーマで多くの「特別講義」を実施したことは評価できる。継続での実施を期待する。
- ◎ 例年一定以上の受験生を確保していることは大いに評価できる。引き続き、進路実績をアピールする等、積極的なPRを望む。
- ◎ 今後もコロナ感染症または新たなウイルスによる変動によって臨機応変な対策が必要。
- ◎ 卒業生の就職内定率が100%を達成し、各種国家資格合格率も全国平均を大きく上回ったことは、大いに評価できる。
- ◎ 令和4年度の設置が認可された大学院サステイナブルシステム科学研究科の開設により、地域における教育研究の中核的拠点として、一層の充実を期待する。



外部講師の招聘

2020年に生産システム科学科で客員教授の土井隆雄氏(宇宙飛行士)を招き、特別講義を開催。例年、各学科で産業界や医療界などで活躍する外部講師を招き、幅広い視野の育成に取り組んだ。

## 数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	中期目標実績(見込)	(説明)
志願倍率	志願者数/募集定員	最終年度	2倍以上	6.8	期間平均
学生の満足度	5段階評価(平均値)	毎年度	3.3	4.12	期間平均
外国語能力検定試験結果	国際文化交流学部 TOEICスコア(4年生平均)	毎年度	600点	550	最新年度
標準修業年限での卒業者の比率	4年間で卒業した人数/ 当該年度入学者数	毎年度 (完成年度以降)	80%	90%	最新年度
就職希望者の就職率	就職者数/就職希望者数	毎年度 (完成年度以降)	90%以上	99%	最新年度
国家試験合格率	看護師・保健師の合格率	毎年度 (完成年度以降)	95%以上	100%	最新年度
	臨床工学技士の合格率	毎年度 (完成年度以降)	95%以上	94%	期間未見込
市民公開講座 開講数	開講テーマ数/年	完成年度以降	10/年	18	期間平均
	教員参画数/年	完成年度以降	20人/年	延べ27人	期間平均
市民による 施設利用度	市民図書館利用者数/年	毎年度	500人	1000人	期間平均
	自習室利用登録者数/年	毎年度	80人	500人	期間平均×0.5
	大学施設利用件数/年	毎年度	25件	250件	期間平均
インターンシップ 参加者数	参加者数/年	毎年度 (3年目以降)	200人	延べ230人	期間平均



### インターンシップ

生産システム科学科「学外技術体験実習」、国際文化交流学科「インターンシップ」・「学外実習」は、市内の企業や団体、行政等の理解と協力のもと、実施できた。

### キャリアタスUC導入(2020)

学生の志望と就職活動の実態、企業の求人情報を一元的体系的経時的に把握するシステムを導入した。



評価

A

中期目標を達成する見込みである

主な活動内容と成果

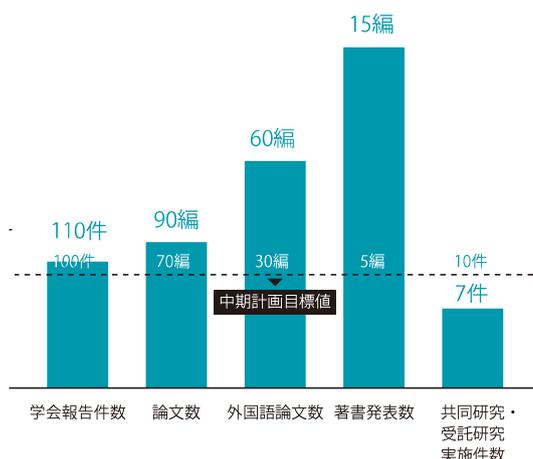
- 大学独自の研究支援制度を設け、各学科の特色を活かした研究、地域の問題解決に向けた研究を推進した。
- 全教員を対象に日本学術振興会研究倫理eラーニングの一斉受講を3年に1回以上実施し、競争的研究費の不正防止など研究倫理に関する意識の向上を図った。
- 学内交流会「Salon de K」を令和元年度から3年間で15回開催し、アカデミックな雰囲気の醸成・学部横断的な研究の推進を図った。
- 「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」を毎年開催し、地域課題解決に向けた連携協力体制の構築を推進した。
- 各種産学官連携イベントへの参加、研究シーズ集・研究者要覧及び広報誌「Tachyon Academia」の発行などを通して、研究シーズの発信や地域連携推進センターの活動のPRを行った。
- 科学研究費補助金等の外部資金の獲得に向け、FD・SD研修会の定期的な実施や申請のための参考書を教員全員に配布するなど適宜申請を支援した。
- 研究環境を整備するため、各種規程・ガイドラインを制定したほか、国の法令やガイドラインに基づき、専門委員会を組織し審査を実施した。

評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われる見込みであり、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 研究支援制度のさらなる充実を期待したい。特に、学内での横断的な共同研究を奨励し、大型の外部資金の獲得に繋げてほしい。
- ◎ 「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」や各種産学官連携イベントの参加により、大学の「知」を積極的に発信している。これらによる受託研究・共同研究への展開や、地域の課題解決への具体的な取組に期待したい。
- ◎ 科学研究費及びその他の外部資金の獲得実績は重要な指標である。今後も積極的な獲得を図られたい。
- ◎ 教員の研究業績が完成年度の目標値を大きく超えていることを評価したい。
- ◎ 大学院の設置に伴い、いままで以上に研究室の活動が重要になる。研究発表・合同研究活動などを実施し、オープンな研究室活動を展開してほしい。



<教員の研究実績(中期目標期間見込)>

## 数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	中期目標達成実績(見込)	(説明)
学会報告件数	報告件数/年	完成年度以降	100件	110件	期間平均
論文・著書数	論文数/年	完成年度以降	70編	90編	期間平均
	英語・その他の外国語論文数/年	完成年度以降	30編	60編	期間平均
	著書発表数/年	完成年度以降	5編	15編	期間平均
共同研究・受託研究数	実施件数/年	完成年度以降	10件	7件	期間平均
科学研究費補助金等獲得状況	科学研究費補助金採択件数/年	完成年度以降	15件	30件	期間平均
	その他外部研究資金採択件数/年	完成年度以降	5件	10件	期間平均

### シーズ・ニーズマッチングシンポジウム

教員の研究発表や意見交換、大学の取組などを紹介。大学の研究シーズを広く地域に公開し、地域課題の解決など地域のニーズとつなげる。



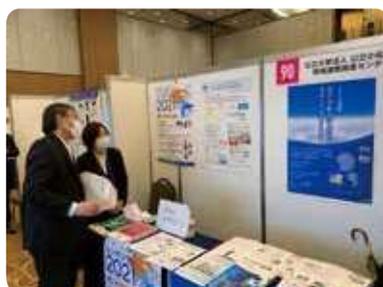
### 市民公開フォーラム

市民や地域社会への知の還元を図るため、毎年度開催。本学教員の研究紹介のほか、第一線で活躍する外部講師の講演を実施。



### 産学官連携イベントへの出展

年間を通して様々な産学官連携イベントに出展し、研究シーズの発信や、地域連携センターの活動PRなどを行った。



▶Matching HUB Hokuriku2021



評価

A

中期目標を達成する見込みである

主な活動内容と成果

- 大学間交流協定10件(ニュージーランド、中国、台湾、タイ、マレーシア、米国、インドネシア、韓国)部局間交流協定5件(中国、タイ、台湾)国際機関等との協定1件(カンボジア)を締結した。
- 海外協定校との覚書に基づき、交換留学として、学生9名を派遣し、留学生7名の受入を行った。短期語学研修や異文化体験実習として、学生95名を派遣し、留学生5名の受入を行った。
- 海外インターンシップとして、カンボジアのアンコール遺跡整備公団における2週間のインターンシップや米国シリコンバレーにおける1週間の産学合同シリコンバレー研修を実施した。
- 海外協定校と連携したオンラインによる研究セミナーや学生交流会等を実施した。また、外務省主催対日理解促進交流プログラムやJICA青年研修事業に採択され、国際的な教育研究シーズの育成につながる様々な国際交流活動を実施した。
- 小松市や小松市国際交流協会等と連携し、海外からの視察団受入れや、JICA青年研修事業の受入れ、国際情勢や中国語について学ぶ「こまつ市民大学」の開講、英会話カフェや中国語カフェの開催など、幅広い取組を実施した。

評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われる見込みであり、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 海外の教育研究機関と協定を結ぶ数が着実に増加していることは評価できる。
- ◎ 産学合同シリコンバレー研修は、地域に還元できる人材の育成に繋がるものと期待できる。シリコンバレーオフィスを通して国際交流の進展を期待したい。
- ◎ 公的競争的事業の採択による国際交流の推進は学生の貴重な体験になり十分に評価できる。
- ◎ コロナ禍において、オンラインを活用した国際交流を実施していることは評価できる。今後更なる交流促進を期待する。



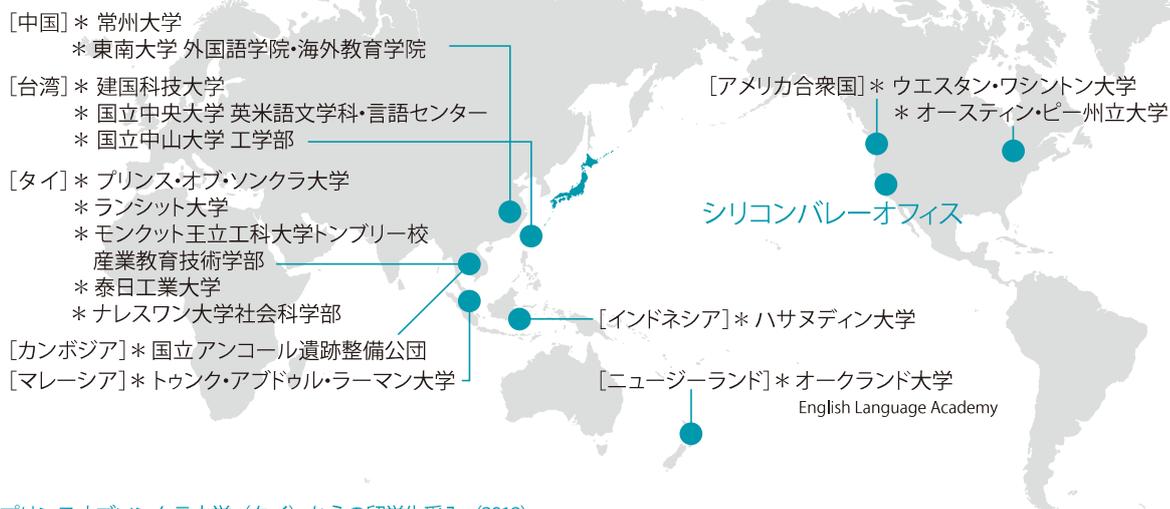
建国科技大学(台湾)との大学間交流協定締結(2018)

小松市の友好都市である彰化市長および建国科技大学学長が来学し、大学間交流協定の調印式を実施。

## 数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	中期目標達成率(見込)	(説明)
留学生受入・派遣数	受入人数/年	毎年度 (3年目以降)	10人以上	10人	期間最高値
	派遣人数/年	毎年度 (3年目以降)	40人以上	25人	期間平均
海外大学等との交流協定締結数	協定数(累計)	最終年度	10件	18件	期間末累計
国際シンポジウム・セミナー等 発表・開催数	発表者数/年	完成年度以降	15人	30人	期間平均
	開催件数(累計)	最終年度	15件	10件	期間末累計

## 国・地域別海外連携機関



### プリンスオブソンクラ大学(タイ)からの留学生受入(2019)

本学学生とともに、小松市内の文化施設等の見学や着物着付けや弓道、茶道等日本文化体験を実施。



### アンコール世界遺産インターンシップ(カンボジア)(2019)

アンコール世界遺産公園の水環境の維持管理、地域社会支援、観光開発・誘致などの業務に取り組む。



# 評価 | A 中期目標を達成する見込みである

## 主な活動内容と成果

- シリコンバレー(米国)において本学のオフィスを開設するとともに、「産学合同シリコンバレー研修」の開催を通じて最先端の技術に触れ、相互交流の促進と地域課題の解決に取り組んだ。
- 「まちなかキャンパス」づくりを推進するため、町家ハウスの利活用やサークル活動への助成など、学生の自主的な活動を支援した。また、大学祭「青松祭」の開催をはじめ、お旅まつりやどんどんまつりなど地域行事へ学生が自主的に参加し、大学の魅力を発信した。
- 市民公開フォーラム、シーズ・ニーズマッチングシンポジウム、こまつ市民大学など教員の専門分野に沿った講座を毎年開講し、市民や地域社会へ知の還元を図った。また、社会人を対象とした「ものづくり人材スキルアッププログラム」や資格取得支援講座を多数開講した。

### 産学合同「シリコンバレー研修」(2019)

シリコンバレーの起業文化と多彩な人種が集うネットワークに触れ、学ぶことで、国際感覚を養い、世界で活躍できる人材育成につなげた。

## 評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われる見込みであり、順調に進んでいると評価される。

### 【評価】

- ◎小松市新型コロナウイルスワクチン集団接種事業への協力は特筆される。今後も専門性を活かした地域貢献に期待する。
- ◎協力企業が着実に増加していることを評価する。引き続き、共同研究、受託研究の推進やシンポジウムの開催など、様々な活動を期待したい。
- ◎市民公開フォーラムやこまつ市民大学、サイエンスヒルズこまつとの連携など、大学から知の発信をしていることを評価する。今後も地域や市民の学びをサポートし、交流が活発になるよう期待する。
- ◎公立小松大学の特筆すべき海外交流の一つは、シリコンバレーオフィスの開設であり、産学官連携での様々な取り組みの展開を期待する。



## 数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	中期目標達成率(見込)	(説明)
市民公開講座 開講数(再掲)	開講テーマ数/年	完成年度以降	10/年	18	期間平均
	教員参画数/年	完成年度以降	20人/年	延べ27人	期間平均
市民による 施設利用度(再掲)	市民図書館利用者数/年	毎年度	500人	1000人	期間平均
	自習室利用登録者数/年	毎年度	80人	500人	期間平均×0.5
	大学施設利用件数/年	毎年度	25件	250件	期間平均
連携施設・ 店舗等の数	累計数	最終年度	50件	370件	期間末累計
学生の地域行事等 ボランティア件数・ 人数	件数/年	完成年度以降	20件	40件	期間平均
	参加人数/年	完成年度以降	100人	120人	期間平均

### 大学祭「青松祭」

実行委員会の学生を中心に、学生たちが自ら企画・準備し、毎年10月に開催している。2020年、2021年はオンライン配信で開催した。



### 地域行事への参加

5月の「お旅まつり」や10月の「どんどんまつり」など、地域の伝統行事やイベントに学生が積極的に参加した。

# 評価 | A 中期目標を達成する見込みである

## 主な活動内容と成果

- 法人全体でビジョンを共有し、一体となって教育・研究・地域貢献等の機能強化に取り組むため、「大学憲章」を制定した。
- 理事長及び学長兩名のトップマネジメントのもと、理事会や各種審議会、教授会等を運営し、適切な法人運営に取り組んだ。自己点検・評価委員会及び評価室による組織ごとの進捗管理表の作成や半年に一度のヒアリングの実施により、業務全体を把握し、適切な進捗管理を推進した。
- 令和元年度に末広キャンパス増築棟、令和3年度に粟津キャンパス大学院棟を整備し、質の高い教育研究を実施できる体制づくりを進めた。
- 構成員の資質・能力の向上を図るため、新規採用職員研修、財務研修、救急研修、ハラスメント研修など年間を通じて、FD・SD研修を実施するとともに、大学コンソーシアム石川や公立大学協会等外部主催のオンライン研修会への参加を促した。
- 学務情報システム、財務会計システム、人事給与システムの導入をはじめMicrosoft社のアプリを活用したオンライン会議やデータ共有・集約など、情報化の推進及び業務の効率化を図った。

## 評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われる見込みであり、順調に進んでいると評価される。

### 【評価】

- ◎ 理事会や各種審議会、教授会などで重要事項が審議された結果が、大学の全構成員に周知させる具体的な方策を検討してほしい。
- ◎ SD・FD活動に取り組む姿勢は評価される。これらの活動によって教職員の資質や能力の向上が評価できる「指標」の検討に期待したい。
- ◎ 大学院の設置に係る取組は評価できる。質の高い教育研究の推進及び博士後期課程の設置に係る準備を適切に進めることを期待する。
- ◎ Microsoft社のアプリの活用による情報の一元管理など、デジタルツールを用いた業務の効率化は評価できる。一層の推進を期待する。
- ◎ 新たに整備された末広キャンパス増築棟、粟津キャンパス大学院棟をはじめ、町家ハウスやビジネス創造プラザ等の施設を有効に活用し、質の高い教育研究を期待する。

## 数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	中期目標期間実績（見込）	（説明）
業務改善実施件数	件数（累計）	最終年度	40件	50件	期間末累計
FD・SDに関する取組件数	FD・SD活動取組件数／年	毎年度	1件以上	4件	期間末累計

## 評価

## A

中期目標を達成する見込みである

## 主な活動内容と成果

- 入学志願者の確保及び入学定員の充足によって安定した学生生徒等納付金収入の確保を図るため、コロナ禍においてもオンラインの活用等工夫を凝らしながら、オープンキャンパスの開催や高校訪問、進路指導教諭対象説明会、進学相談会への参加など、様々な取組を実施した。大学進学相談会や高校訪問は、北陸三県を含む中部地方全域にかけて広範囲に実施した。
- パンフレット「公立小松大学基金への寄附のご案内」の活用や、ホームページでの基金の活用事例の紹介により、基金の受け入れを促進した。
- 科学研究費及びその他外部資金獲得の実績は、完成年度以降目標値を超える結果(令和3年度実績:科学研究費採択数:44件、その他外部資金獲得数:14件)となった。

大学HP「公立小松大学基金で寄附の活用事例/感謝の声」  
ホームページに基金の活用事例を紹介するページを設け、基金の使途や助成を受けた学生からの感謝の声を掲載。



## 評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われる見込みであり、順調に進んでいると評価される。

## 【評価】

- ◎ 受験生のニーズに沿った積極的・効果的な入試広報で高い志願者倍率を維持している点は評価できる。
- ◎ コロナ禍における予算編成・執行は難しさもあったが、今後も大学の活動を停滞させない柔軟な対応を図りたい。
- ◎ 今後も収益と投資のバランス、学生の将来に還元できるような財源の有効な活用に期待したい。

オープンキャンパス (2021年7月: 国際文化交流学部模擬授業)  
模擬授業、キャンパス見学など学科ごとに様々なプログラムを実施。



## 数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	中期目標期間実績(見込)	(説明)
自己収入額	自己収入額/年	毎年度 (完成年度以降)	7億円以上	7.3億円	最新年度
科学研究費 補助金等獲得 状況(再掲)	科学研究費補助金 採択件数/年	完成年度以降	15件	30件	期間平均
	その他外部研究資金 採択件数/年	完成年度以降	5件	10件	期間平均

# 評価 | A 中期目標を達成する見込みである

## 主な活動内容と成果

- 前年の業務実績について法人評価委員会による評価を受け、指摘やアドバイスは学内の審議会や委員会を通じて全職員へ周知し、業務改善や新たな取り組みの実施に努めた。
- 自己点検・評価委員会及び評価室により、各セクションの業務の把握、進捗管理を定期的実施し、円滑な業務執行につなげた。
- 「広報室」を中心に、広報誌「Tachyon」、大学案内の発行、ホームページの更新のほか、テレビやラジオ、新聞、市の広報紙、YouTubeなどさまざまな媒体での広報活動を展開した。また、研究に特化した広報誌「Tachyon アカデミア」を令和3年に発行し、研究内容や成果に関する発信を強化した。

### 広報誌Tachyon／Tachyonアカデミア

広報誌Tachyonは年2回発行し、市内公共施設に設置しているほか保護者や北陸三県の高校等へ送付し、学生の様子や大学の取り組みを広く発信した。Tachyonアカデミアは生産システム科学部、保健医療学部、国際文化交流学部から1名ずつ教員の研究内容や成果について詳しく紹介した。



## 評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われる見込みであり、順調に進んでいると評価される。

### 【評価】

- ◎自己点検・評価の結果を大学の全構成員にフィードバックし、今後の教育研究活動や大学改革に役立ててほしい。
- ◎様々なメディアを活用した広報および広報室学生委員の活動は評価できる。地域に根付いた大学として、今後ますます市民に親しまれる効果的な広報を期待する。
- ◎大学の知を発信する「機関リポジトリ」を導入し、大学の研究成果の収集、蓄積、保管、発信に努めてほしい。

### 広報室学生委員

2020年に学生の視点やアイデア、発信力を取り入れ、大学の広報活動の多様性を高めることを目的に「広報室学生委員」を設置。サークル取材や新入生インタビューを行い、ホームページや広報紙Tachyonに掲載するなど、学生目線による情報発信を行った。



## 評価

## A

中期目標を達成する見込みである

## 主な活動内容と成果

- キャンパス整備計画に基づき、粟津キャンパス及び末広キャンパスを整備した。粟津キャンパスではエレベーターの新設や研究室・実習室・トイレの改修、末広キャンパスではC棟の増築工事、A・B棟の改修を行った。
- 令和3年度に粟津キャンパス大学院棟を整備し、設備の充実を図った。また、末広キャンパスでは研究実験棟整備のため建築用地の購入はじめ基本設計に着手するなど、研究施設の整備を加速させた。

## 評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われる見込みであり、順調に進んでいると評価される。

## 【評価】

- ◎ 「施設・設備計画」に基づき、計画的に整備を進めていること、バリアフリー化を計画的に進めていること、新型コロナウイルスの感染防止対策を適切に行っていることなど、施設・設備の整備が順調に進んでいると評価される。

## 評価

## A

中期目標を達成する見込みである

## 主な活動内容と成果

- 職員を対象とした定期健康診断やストレスチェック、研修等を実施し、職員の心身の健康の維持・増進に取り組んだ。また、年5日以上の有給休暇取得義務化を受け、定期的に職員へ有給休暇の取得状況を通知し、年休の取得促進を図った。
- 毎年、決算・業務について監事監査及び内部監査を実施し、法人業務は適正に実施していると認められた。

- 危機管理マニュアルや自衛消防マニュアルの策定、研修・防災訓練の実施、防災備蓄品を整備した。
- 危機管理委員会及び安全衛生委員会を定期的に開催し、感染拡大防止等に対する教職員・学生の危機管理意識を組織的に高めた。

## 評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われる見込みであり、順調に進んでいると評価される。

## 【評価】

- ◎ 定期健康診断や健康相談、予防接種の奨励、ストレスチェック、新型コロナウイルス感染症対策を積極的に進めており、評価できる。活動の成果を見える化し、今後の健康管理に役立ててほしい。
- ◎ 安否確認システム「Safetylink24」の本格運用により防災体制の強化が図られたが、有事の際に円滑に利用できるよう、日頃から環境整備を進めてほしい。

## 学内での新型コロナ感染症対応（再掲含む）

- \* 講義室の環境改善（収容人数の半減化・換気の徹底・オンラインの併用など）
- \* 空気清浄機（計10台）・オゾン発生器（計100台）・サーモグラフィ体温測定器（計4台）の設置
- \* オンライン会議の促進
- \* 職員による日々の施設内消毒
- \* 各種媒体（館内掲示・メール・HP・ポータル・館内放送など）による情報提供・注意喚起
- \* 不安を抱える学生に対するメンタルケア
- \* 各講義室や共用場所にアルコール、机などを拭く消毒用クロスを設置
- \* 感染者判明の際、新型コロナ感染症連絡網を活用